

# 第4次総合計画 管理事業を構成する予算事業の評価シート

評価対象年度 令和3年度

施策コード	431	施策	青少年の健全育成
管理事業	青少年活動サポートプラザ事業	所管部局	地域教育部

1	所管室課	青少年室	事業名	青少年活動サポートプラザ管理事業	
事業概要					
青少年活動サポートプラザ管理（指定管理者施設管理）					
活動実績					
<p>青少年又は青少年団体が安心して学び、活動し、交流できる場を提供するとともに、その成長または発展に応じた支援を目的として、子育て青少年拠点夢つながり未来館青少年活動サポートプラザの施設の貸館業務及び維持管理を行った。</p> <p>(1) 貸室利用件数 令和3年度…9,049件 令和2年度…7,524件 令和元年度…11,740件</p> <p>(2) 貸室利用者数 令和3年度…69,006人 令和2年度…63,452人 令和元年度…148,733人</p> <p>利用者アンケートの実施等により、利用者のニーズを把握し、事業運営に反映させた。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、サーマルカメラ検温システム付手指消毒液自動噴霧器や網戸を設置した。</p> <p>また、コロナ禍における新しい生活様式に対応するため、公衆Wi-Fiを導入し、オンライン会議やオンデマンド授業の受講が可能になるよう、施設利用者のサービス向上に取り組んだ。</p>					
		年度	R2	R3	評価の視点
		決算額（千円）	76,790	80,963	
		一般財源の比率（%）	93.3	94.5	※課題があるものは■ <input type="checkbox"/> 市民ニーズ、社会的役割 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/> 公平性 <input type="checkbox"/> 持続可能性
		事業自体の課題や対応状況・施策推進への貢献に関する課題			
		平成26年度から貸館業務及び施設維持管理業務の一部に指定管理者制度を導入し、効果的・効率的な施設管理を行い、市民サービスの向上を図っているが、さらに利用者のニーズに対応した、より魅力的な事業展開を行う必要があると判断し、令和4年度から委託業務である交流活動支援業務を指定管理者の業務範囲に加え、ソフトとハードを一体的に運営する。			今後の実施計画の方向性・内容
					継続

2	所管室課	青少年室	事業名	青少年活動サポートプラザ主催事業	
事業概要					
青少年活動サポートプラザ運営					
活動実績					
<p>(1) 青少年交流活動支援事業 青少年の自立や社会参画を促すことを目的とした居場所づくりや青少年の自主的な活動の支援、各種イベントの企画運営を行った。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を講じながら、学習室の利用や時間制限を設けて交流ロビーの運営を行った。</p> <p>【青少年交流活動支援におけるイベント参加者数】 令和3年度…1,009人 令和2年度…1,117人 令和元年度…7,433人</p> <p>【学習室の提供】 令和3年度…23,546人 令和2年度…17,514人 令和元年度…23,366人</p> <p>(2) 青少年委員会の開催 青少年活動サポートプラザにおいて、青少年の立場でより良い施設とするための意見を聴取し、イベントの企画・運営など幅広い活動を実施した。（延べ人数） 令和3年度…59人 令和2年度…44人 令和元年度…126人</p> <p>(3) 3施設連携イベント 人数制限等3密対策を講じて、夢つながり未来館の3施設が連携し、あそびフェス等を開催した。</p>					
		年度	R2	R3	評価の視点
		決算額（千円）	17,358	17,722	
		一般財源の比率（%）	99.9	99.9	※課題があるものは■ <input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ、社会的役割 <input type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/> 公平性 <input type="checkbox"/> 持続可能性
		事業自体の課題や対応状況・施策推進への貢献に関する課題			
		平成23年の開館以来、青少年が自ら考え、主体的に活動し、安心して過ごすことができる環境づくりを一部委託も交えて、整備してきた。青少年がボランティアや年代を超えた様々な人々との交流をとおして、自己肯定感や主体性、責任感等の成長が見られるなど、一定の成果をあげることができた。			今後の実施計画の方向性・内容
		さらに利用者に寄り添った事業運営をめざし、令和4年度から交流活動支援業務を指定管理者の業務へと移行する。			継続

3	所管室課	青少年室	事業名	青少年活動サポートプラザ相談事業	
事業概要					
青少年活動サポートプラザ相談					
活動実績					
<p>子ども・若者育成支援推進法に基づく子ども・若者総合相談センター（ぶらっとるーむ吹田）として、相談を実施している。</p> <p>(1) 新規相談件数 令和3年度…295件 令和2年度…192件 令和元年度…208件</p> <p>(2) 社会参画につながったケース 令和3年度…60件 令和2年度…56件 令和元年度…56件</p> <p>(3) 他機関協議の実施回数 令和3年度…1,223回 令和2年度…734回 令和元年度…375回</p> <p>(4) アウトリーチ（訪問支援）の実施回数 令和3年度…389回 令和2年度…317回 令和元年度…276回</p> <p>子ども・若者総合相談センターでは、社会生活を円滑に営む上での困難を有する青少年（39歳まで）及びその家族に対し、相談員が子ども・若者支援地域協議会を活用し、関係機関と連携しながら面談やアウトリーチ（訪問）等を行い、青少年の自立を支援した。</p> <p>また、支援が必要でありながら、適切な支援につなげていない複合的課題を有する子供・若者に対し、関係機関が連携し、早期に支援を届けるため、高校（定時制やエンパワメントスクール等）や市内中学校（SSW）を訪問し、連携強化に努めた。</p>					
		年度	R2	R3	評価の視点
		決算額（千円）	33,185	35,461	
		一般財源の比率（%）	51.6	51.8	※課題があるものは■ <input type="checkbox"/> 市民ニーズ、社会的役割 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/> 公平性 <input type="checkbox"/> 持続可能性
		事業自体の課題や対応状況・施策推進への貢献に関する課題			
		ひきこもり、ニート、不登校、虐待など、青少年が抱える課題が複雑化・複合化しており、自立に向けて関係機関等との連携によるチームでの支援が重要となっている。			今後の実施計画の方向性・内容
		支援を必要とする青少年の早期発見・早期支援、切れ目のない支援のための体制づくり等が必要であり、アウトリーチや関係機関との協議等を積極的にしている。今後は学校との連携をさらに強化していく。			継続

上記以外の予算事業 ※ 当該年度で廃止した事業、繰出事業などはこちらに記入。

所管室課	事業名	所管室課	事業名